

南砺市井波地域における 移動手段確保に関する取組について

一般社団法人イドウラボ
岩瀬直人

地域の 新しい移動の形に挑戦する。

私たちは、持続可能な新たな交通手段を通じて、地域に求められる移動に関わる課題を解決し、
地域社会のつながりと生活の質を向上させる未来を創造します。

設立

2021年2月

本社

富山県南砺市(旧井波町)
本町3丁目41 2F

事業

- ・移動・モビリティに関する課題を解決する手法・プロジェクトの研究、立案及び実行
- ・日本の地方に人材を呼び込むためのインバウンド関連施策の研究、立案及び実行

役員

代表理事:岩瀬 直人

- 公共ライドシェアアドバイザー
- 早稲田大学創造理工学部社会環境工学科都市・交通計画研究室 学士
- 元パシフィックコンサルタンツ PPP/PFIマネジメント部

理事 : 島田 優平

実績

国受託案件

モビリティ人材育成事業

共創MaaS事業を受託し、2024年10月から12月にかけて、富山大学堀田研究室と ITSJapanと共同でこれからの地域交通を担う人材を育成する事業(全6回)を実施しました

グリーンスローモビリティ実証事業

studio-Lと文化庁の補助事業を受託し、富山県の井波地域内の移動において、グリーンスローモビリティ、シニアカー等を活用した実証実験を実施しました。

自治体受託案件

富山県による交通モデル実証補助事業

富山県中山間地域等買い物弱者対策モデル実証業務を受託し、2023年1、2月に富山県の井波・庄川地域において、「無料月金バス」を運行しました。

市民・小中学生移動需要調査

市民の目的別の日々の移動及び小中学生の親御さんの送迎状況のOD調査実施のためのアンケート設計、集計、分析を実施しました。

南砺市の井波地域を中心に活動。井波は JRや高速道路が通っておらず、南砺市のなかでも移動に不便な場所に位置する、人口 7,300人の地域。



井波地域は木彫刻の長い歴史を有し、日本遺産に認定されている

インバウンド人気エリアに 囲まれた好立地と 唯一無二の「井波彫刻」

- ・「日本遺産」認定地域
- ・外国人観光客の多い金沢・高山、日本遺産高岡と連携しやすい立地
- ・井波彫刻は250年で800人以上の職人を輩出
現在も100人以上の彫刻師が住まう
- ・唯一無二の集団として、名古屋城本丸御殿欄間や小石川庭園唐門の復元などに携わる



団体創設当初の取組 (2018年時点)

団体創設当初の取組（2018年時点）

1. ジソウラボが提案する井波のモビリティ

～トヨタモビリティ基金をきっかけとして構築した 4 つのプラン～

2. コミュニティ・ライド・サークル事業

3. 自動運転シニアカー実証実験

2018年度開催 井波地域まちづくり検討会における意見

- ・これから高齢になったらどのように過ごしていけばいいのか？
- ・免許返納したいができない。
- ・井波は特に交通が不便だ
- ・井波地域には医療や福祉、ショッピングセンターが井波地域の街中に集中している。井波地域内を循環できる交通がない。



井波地域が目指すまちづくりの方向性

① コンパクトで生活しやすいまちづくり

② 庁舎を中心とした複合交流エリアの整備

③ 日本遺産・井波の魅力発信
(周遊観光動線の設定)

提言：コンパクトで生活しやすいまちづくり！

＜方策・具体的な取組＞

●地域全体を効率的に巡回するデマンド式ボランティアタクシー循環路線の運行

- ・運営主体は小規模多機能自治、運転者は定年退職者等を想定
- ・車両はワンボックス8人乗り程度
- ・ポイント制(地域通貨、なんとポイント等)導入も検討

[想定経路・主要停車ポイント]

アスモ、市民病院(地域包括ケアセンター)、庁舎跡、交通広場、地域内各地区
(＋小中学校、八日町通り、瑞泉寺、木彫りの里 など)

→ 適切なルート設定と運用で免許返納者・高齢者・買い物弱者などの交通弱者を支援

※具体的な運行形態やルート等については、担い手(事業者・ボランティア)と利用者(地域住民)、行政を交えた検討組織で協議検討していく。

<地域で取組むこと>

- ・庁舎利用後の複合交流施設の運営管理
- ・**デマンド式ボランティアタクシーの確立**
- ・産地直送販売網の確立

<行政に望む支援>

- ・防災機能を併せ持った総合文化センターの運営継続
- ・地域内公共交通網の整備にあたっての補助(車両整備費、通信環境等)
- ・市営バスの運行(他地域への円滑な移動のため地域内循環線と調整)

<この取組によって解決できる課題>

- ・地域内での多世代交流の促進
- ・元気な高齢者のまちづくりへの参画
- ・町部と村部をつなぐ仕組みで地域内経済の循環と活性化を両立

2018年 アメリカポートランドへ視察



レンタルサイクル スタンド



自家用有償運送 リフト



バスは自転車も運ぶ

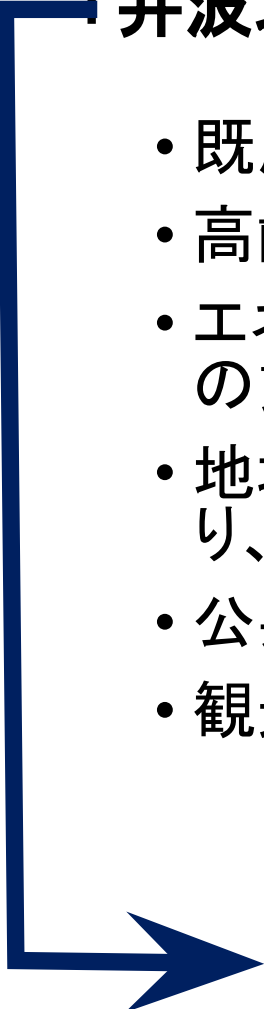


ライトレール

「自然豊かな日本遺産井波のまちなみに、 地域資源で走る持続可能な公共交通網づくり」

「井波地域の持続可能な交通網づくり協議会 準備会」

- 既成公共交通機関の利用促進
- 高齢者等、交通弱者への移動手段提供と生活活性化促進
- エネルギー自給による公共車両EV化による低炭素社会への貢献
- 地域内に細やかな移動の仕組みを地域の人々が自らつくり、運営することで個人にできる
- 公共意識の強化とコミュニティの活性化
- 観光事業への貢献



2020年 「井波モビリティ協議会設立」

ジソウラボが提案する井波のモ ビリティ

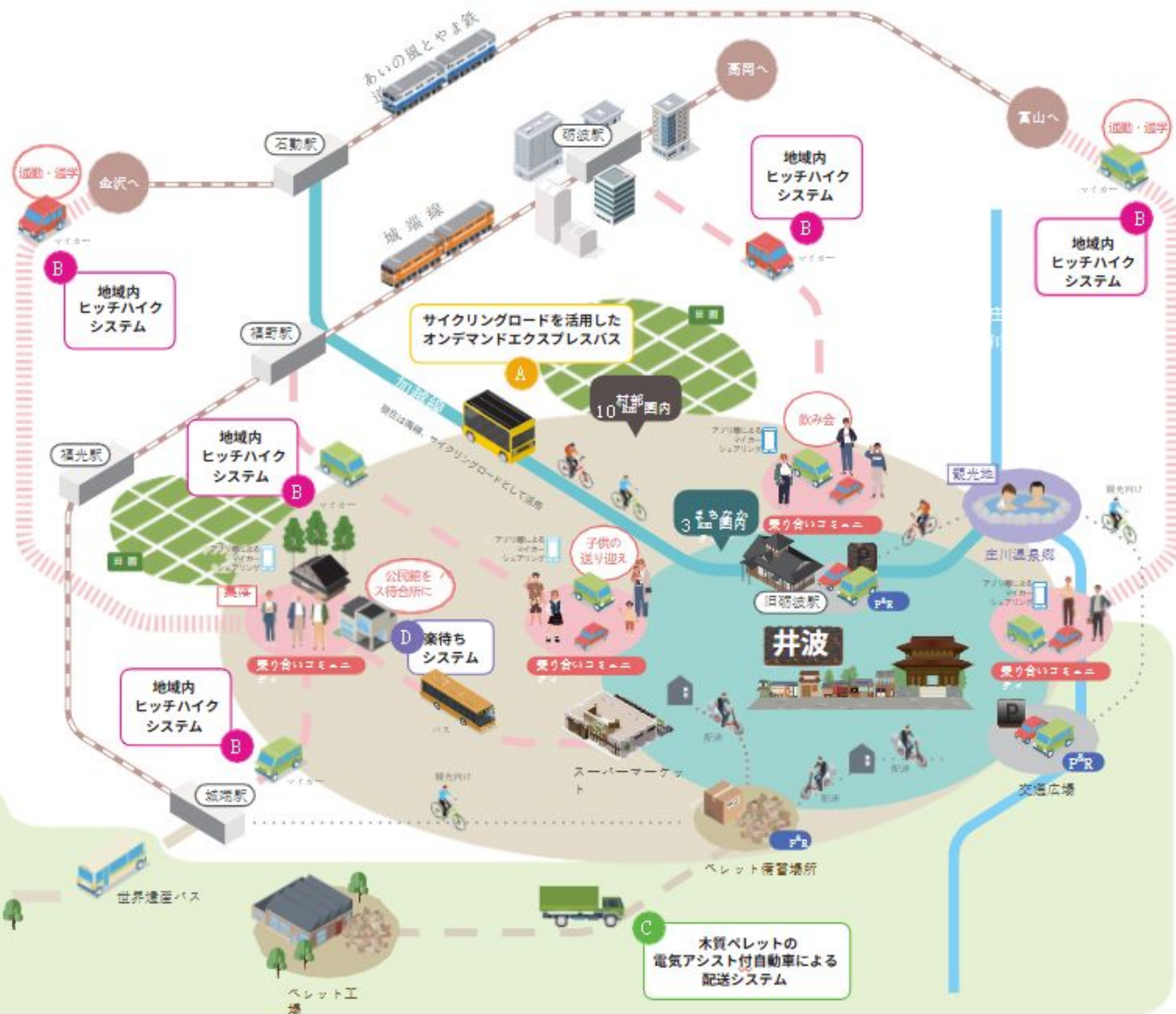
～ 4つのプラン～

井波が目指す 次世代 モビリティシステム

井波のまちなかを中心に
「ひと」も「もの」も
ネットワークでつなぐ

4PLANS 4つの基本計画

- PLAN A** サイクリングロード・エクスプレス・モビリティ（CEM）
旧加越線のサイクリングロードを活用した、通勤・通学用のエクスプレスモビリティレーン
- PLAN B** コミュニティ・ライド・サークル
地域内で形成された自由利用可能なライドサークルのヒッチハイクシステム。アプリ等を駆使して、マイカーシェアリングでのマッチングを行う。
- PLAN C** ローカル・デリバリー・システム
宅配ボックスと駅前郵便局を結ぶ地域宅配ネットワーク。地域の家庭やモビリティで配達する循環モデル。
- PLAN D** 乗待ちシステム
路線バスや交通シオ全線に交通シオが利用可能になるように、高齢者も安心して待つことができる。



PLAN



サイクリングロード・ エクスプレス・モビリティー(CEM)

旧加越線のサイクリングロードを活用した、通勤・通学用の
エクスプレスモビリティレーン

PLAN



コミュニティ・ライド・サークル

地域内で形成された目的別コミュニティサークルのヒッチハ
イキングシステム。アプリ等を用いて、マイカーシェアリング
のマッチングを行う。

PLAN



ローカル・デリバリー・システム

電動アシスト自転車で人と物を運ぶシステム。木質ペレット
をはじめとした、間伐材等を活用した地産エネルギーを地
域内の家庭やモビリティで消費する循環モデル。

PLAN



楽待ちシステム

地域交流センター(公民館)をモビリティーの拠点とするオ
ンデマンド交通システム。交流センターがバス停代わりに
なり、高齢者も安心して待つことができる。

コミュニティ・ライド・サークルの当初の計画

「地域内で形成された目的別コミュニティサークルのヒッチハイキングシステム。アプリ等を用いて、マイカーシェアリングのマッチングを行う。」

- ▶ 買い物、通院、通勤、飲み会、サロンなど、行き先別に相乗りのコミュニティを作り、同じような時間に移動する人をヒッチハイクする計画



買い物相乗りコミュニティ



サロン相乗りコミュニティ



通院相乗りコミュニティ

...

井波モビリティ協議会における議論

運転の安全性について

- ▶ 「一般ドライバーが運転する車に人が乗ることは危険である。」
- ▶ 「講習を受けたドライバーのみが運転するべきである。」

このような経緯から、**ボランティア運転手を募って、警察の交通安全指導を受けたドライバーのみ運転することになった。**

また、その場合、行き先別コミュニティごとに十分な運転手が確保できないことから、コミュニティに関わりなく、相乗りを行うことになった。

相乗りする場合の保険について

- ▶ ボランティア運転手の任意保険で相乗りを行なった場合、相乗りを行なっている際の事故が担保されない可能性が大きいことを、トヨタ・モビリティ基金から指摘された。
 - 通常の任意保険は、日常・レジャー、通勤・通学、業務の3つに使用目的が区分されているが、相乗り事業はこれらのどれにも当たらない。
- ▶ 今回の事業では、損害保険ジャパン株式会社の「移動支援サービス専用自動車保険」に加入している。
- ▶ 保険料は次の通り
 - 車両保険あり 1,700 円(／日・台)¹⁾
 - 車両保険なし 400 円(／日・台)

実証成果と課題（2022年時点）

<成果>

- ・地域における交通について議論を深めていく座組ができた。（協議会）
- ・**自家用車を活用するには多くのハードルがある。（保険、費用）**
- ・ただちに、現状交通にどうしようもなく困っている人は少ない。
- ・移動の目的が明確なところから交通の対策を実施していくことが効果的
（お年寄りサロン、買い物、子どもの通学、習い事）
- ・**地域交通事業者との連携で、より安全・安心・使いやすい料金・持続的な仕組みをつくっていく必要がある。**
- ・システムに頼ると利用しにくい。
- ・コロナ禍においては、コミュニティの関係性を築くのが思いのほか難しい

<課題>

- ・**公共交通機関、行政、民間の活力と地域の連携による法的課題の解決**
- ・目的や外出したいと思う目的づくり（コミュニティの形成）
- ・子育て世代への交通支援（生活様式の多様化、選択肢の提示）
- ・継続的な交通への取組みと考え

直近の取組

市をまたぐ交通ルートや新モビリティの実証運行、大学と連携した人材育成、南砺市内の小中学校や地域団体の協力のうえでのデータ収集・分析など幅広く取組を実施

①実証運行

- 富山県による交通モデル実証補助事業【富山県】
- グリーンスローモビリティ実証事業【文化庁】

②人材育成

- モビリティ人材育成事業【国交省】

③ODアンケートデータ収集・分析

- 南砺市民・小中学生移動需要調査【南砺市】

富山県中山間地域等買い物弱者対策モデル実証業務を受託し、2023年1、2月に富山県の井波・庄川地域において、「無料月金バス」を運行。2023.1~2月の月曜、金曜：16日間を無償で運行し約230名が乗車。翌年も有償で継続して検証を実施。

富山県 富山県中山間地域等買い物弱者対策モデル実証業務

月土バス

実証実験のお知らせ

1/6~2/26
毎週月・土曜日 1日4便運行

**予約不要！ルート内で自由乗降可！
どなたでも1回300円でご利用可能**

運行ルート



①A アスモ
②B 交通広場(看板前)
③C 加越能バス井波
④D 南砺市民病院(タクシー乗り場)
⑤E 石坂内科病院
⑥F ひらせい前
⑦G 道の駅庄川
⑧H 西蓮寺
⑨I 庄川生涯学習センター
⑩J ゆずの郷 やまぶき
⑪K となみ野庄川荘
⑫L 庄川生涯学習センター
⑬M 西蓮寺
⑭N 道の駅庄川
⑯P コメリ前
⑰Q 石坂内科病院
⑱R 南砺市民病院(タクシー乗り場)
⑳S 交通広場(看板前)
㉑A アスモ

車両にはマグネットが貼られています

1回300円 月土バス

井波 ←→ 庄川各施設巡回

企画運営 一般社団法人 イドウラボ



studio-Lと文化庁の補助事業を受託し、富山県の井波地域内の移動において、グリーンスローモビリティ、シニアカー等を活用した実証実験を実施。 2023年10月：11日間の運行で約120名が乗車

井波 日本遺産 **無料**

井波のおでかけグリスロ

電気で走る小さな乗りもの

井波のおでかけグリスロとは？
井波地域内の坂道の多い暮らしや観光での移動を手伝うため、低速電動カート（グリスロ）を用いた新たな移動手段の実証実験をします。期間中、時間ごとに決められたコースを周遊しますので、小さなお子様連れや長時間の歩行が困難な方など、どんな方でも気軽ににご利用ください。

10月17日（土）から27日（金）まで
出発 井波交通広場（南砺市山見956-1）

貸し出しできます！
20分間
自由に試乗
いただけます。

電動キックボードとシニアカーも2台

お申し込み先（事前申込み優先）

各曜日、希望コースを、乗車人数、ご滞泊先を明記の上QRコードより申込みください。

※助成は保護者同伴でご乗車ください。
※グリスロは乗車し乗車人数。（最大4名）
※雨天祭などの場合は、運行中止となります。
（中止の場合はご乗車先にお知らせいたします）
※申込みのキャンセルは、乗車の30分前までWEB上で手続きできます。
※電話での申込み、ご不明点は下記「問合せ」の電話番号にお問い合わせください。
問合せ：一般社団法人イドウラボ（担当：奥田・吉澤）
電話：9～16時 / 平日 0763-82-0124（奥田）
休日 090-4832-2225（奥田）
090-4321-4810（吉澤）

コース内どこでも乗下車可能

料金10～15km グリスロで利用3コース

コース1 **くらしコース** 2.3km
井波の静かさいまの風景や、古い街道などをまわるとし目録のルート
①横倉寺 ②井波八幡宮 ③まちなか通り ④アスを15分中継

コース2 **まちなかコース** 2.5km
温泉寺から井波八幡宮や、井波神社の地蔵堂などを見学しながら、まちなかコースをめぐるとし目録のルート
①横倉寺 ②井波八幡宮 ③白濁水 ④本町の里 ⑤本町総合会館

コース3 **みわたしコース** 8km
井波のまちなかから、高瀬神社を参拝し、静かな山間風景が広がる、とろろ平野の眺めを楽しむルート
①中津見 ②高瀬神社 ③高瀬遺跡 ④高瀬見城

問合せ：一般社団法人イドウラボ（担当：奥田）電話番号 090-4832-2225
本事業は、文化庁「日本遺産観光力増進事業」の助成を受け井波日本遺産推進協議会が実施しています。



共創MaaS事業を受託し、2024年10月から12月にかけて富山大学堀田研究室とITSJapanと共同でこれからの地域交通を担う人材を育成する事業（全6回:現地視察及びワークショップ）を実施。総勢 90名の社会人や学生が参加



市民の目的別の日々の移動及び小中学生の親御さんの送迎状況の OD調査実施のためのアンケート設計、実施し集計・分析を実施

移動の目的

通勤

買い物

通院

余暇

健康増進

夜間

部活・クラブ等の移動、送迎



質問例

いつ？

どのような手段で？

どれくらいの頻度で？

課題は？

相乗りサービス利用する？

全自連のライドシェア研修の一環として、2025年1月に佐賀県武雄市における共助版ライドシェアの視察に訪問

全国自治体ライドシェア連絡協議会

佐賀県武雄市 許可登録不要型“共助版ライドシェア”

🕒 2025.02.18 📁 2025.05.26



塾や習い事へ通う子どもたちの移動の足を支える取組

現在の取組

井波モビリティセンター基本計画策定

井波地域のショッピングセンター「アスモ」を中心とした公共交通網の再設計に向けて、民間主導での地域発のモビリティセンター基本計画策定を進行中

交通ハブ(モビリティセンター)の充実 南砺市地域公共交通計画(抜粋)

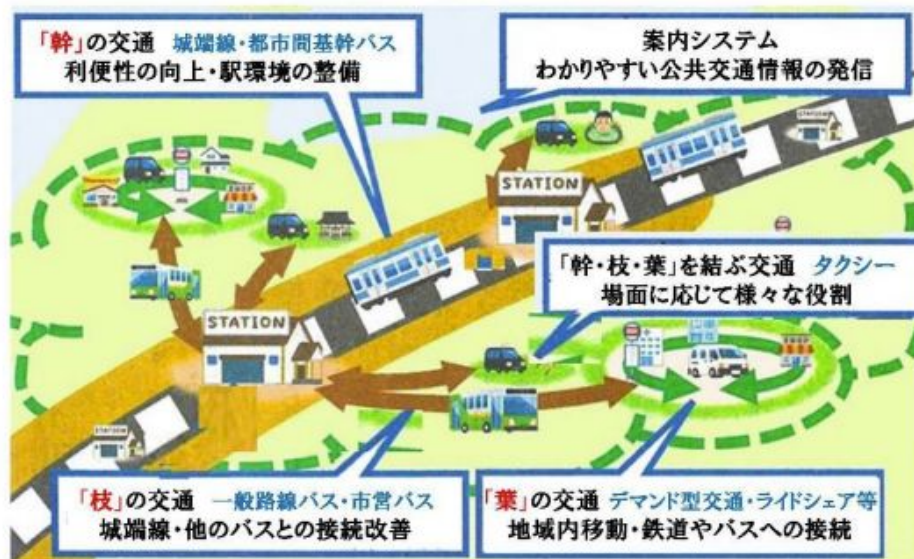
【駅・ターミナルのハブ化】

城端駅については J R 城端線との接続を含めて、さらなる利便性の向上を目指しハブ化を一層進展させる。高速バスや都市間基幹バスの城端駅乗り入れについても引き続き誘致を進める。

また、福野駅・福光駅も同様にハブ化を念頭において市営バスの路線・ダイヤの接続向上を図る。さらに井波にも各方面からのバス路線が集結しておりバスネットワークのハブとして機能するように検討するとともに、沿線各駅がまちづくりの拠点となり、人が集まりやすい場所となるよう、環境改善に取り組む。

<目標3> 広域的な交通と観光における拠点化を進める

拠点となる駅・バス停を交通ハブ（モビリティセンター）として充実を図る。



本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業(ACEプログラム)

文化庁による ACEプログラムの事業の一環として、ゾーン間を回遊するラストワンマイルの地域内モビリティの導入を検討中

拠点整備の全体像

「日本遺産：木彫刻のまち」を
さらに深化させる3ゾーン一体整備



図_モビリティセンター基本計画の参考イメージ

出典:https://www.city.saga.lg.jp/site_files/file/2025/202507/p1iv1tkd3trjc1va415641bli5gbc.pdf

End of the file